

はたらく子供たち ～パーム油の生産における児童労働問題～

作地翔太・沢尻桃夏・宮下歩未・山根未鈴

1. はじめに

本研究では、パーム油の生産における児童労働の問題について調査・検討した。そして、その成果を附属中学校のオンライン模擬授業で発表し、児童労働問題の解決策について中学生に考えてもらい、意見を共有することによって一人一人の児童労働に対する問題意識の向上を図った。

2. 模擬授業の内容

模擬授業では、まず、児童労働の定義とパーム油について説明し、自分たちが普段何気なく使っているものや食べているものにパーム油が利用されており、それらの一部が子供たちによって生産されていることを確認した。次に、パーム油における児童労働の問題点と現状について示した。

パーム油の生産における児童労働の問題点は5つある。第1に、他の植物油に比べ、非常に安価で便利な点からパーム油の需要が増加していることである。第2に、児童が労働しなければならない背景があることである。第3に、農園の労働環境である。第4に、危険な労働である。第5に、義務教育が受けられない点である。これらの問題点が挙げられる根拠として以下のような現状を示した。

世界の子供の10人に1人が児童労働に従事しており、そのほとんどがパーム油などの農林水産業である。農林水産業の児童労働問題は、農薬の健康被害、最低賃金以下での長時間労働、過度なノルマ設定による強制労働、罰則、罰金などである。子供たちの中には学校が終わるとすぐに農園で親の手伝いをする子や、学校を辞めて一日中働いている子がいる。健康被害が多数発生していても、十分な防具が支給されないなどの問題がある。

上記を踏まえて、児童労働が起こる原因は複数挙げられるが、最も大きな要因は貧困であることを説明した。さらに児童労働がSDGsの17の目標のうち、「3. 全ての人に健康と福祉を」、「4. 質の高い教育をみんなに」、「8. 働きがいも経済成長も」、「12. つくる責任 使う責任」の4つに関連すること、この中でも8では2025年までにあらゆる形の児童労働をなくすことを目標として掲げていることを説明した。

3. 私たちにできること

今回、私たちが取り上げた児童労働の問題を解決する方法について、「私たちにできることを考えてみよう」という問いを投げかけ、中学生に話し合いをして発表してもらった。

中学生のアイデアは大別すると5つある。第1は「募金または防具、筆記用具などの寄付」である。これは最も多く出た回答で金銭的な補助は不可欠であり、最も身近で容易な解決方法であると回答してくれた。第2は「機械の導入」である。子供が農薬に触れずに済むため、子どもの健康被害を抑えつつ、農産物を生産することができるかと回答してくれた。第3は「食料品を送る」である。これは、同じ時間に行われた食品ロスの発表を踏まえてに回答である。第4は「フェアトレード商品を買う」である。私たち大学生も解決策の一つとして挙げたものであり、現在SDGsについて学んでいる中学生ならではの回答であった。第5は「児童労働をしなくてもいいような法を整備する」である。児童労働の定義を説明した際に、ACEでは元々ある現地のルールを活用して児童労働をなくす取り組みを行っていることを示したため、これを受けて導かれた回答であった。

このような中学生の意見を受けて、私たちの提案を示した。第1は「私たちが働きかけをすること」である。貧困の子供たちを救うには、政府や自治体の金銭的な補助は不可欠であるため、それらを促進する必要がある。第2は「認証パームが使用されているRSPOマークの商品を購入すること」である。この商品の購入により、RSPOマーク商品の需要が高まり、多くの企業が採用することで児童労働を防ぐことができる。第3は「フェアトレード商品を買うこと」である。これらの商品を購入することで国際的な格差が是正され、途上国の人々の生活改善に繋がるとされている。よって、児童労働をなくすことが可能になるのである。買い物をする際には、是非フェアトレード商品を探して買ってほしい。第4は「レッドカードアクション」である。これは「STOP! 児童労働」と書かれた赤い紙を持ちながら写真や動画を撮影し、SNSで共有することで児童労働を防ぎたいという意思を世界に広げる動きである。世界ではさまざまな立場の人が幅広く参加している。

以上の点を踏まえて、私たちが最も大事であると考えたのは「発信すること」である。児童労働について理解し、家族や友人に事実を共有し、児童労働について一緒に考えて欲しいことを伝えた。

4. 附属中学校での成果

オンラインでの模擬授業を通して、中学生はすでにSDGsについて学習しているからか、フェアトレードなどのキーワードが知られていたため、児童労働についての情報が発信され始めているように感じた。また、児童労働問題の解決策として募金や防具、学習用具などの寄付を行うことや、フェアトレード商品を買うことが自分たちにできることであると認識していたことには驚かされた。他方、自分にできることは少ないという回答も見受けられたため、日々の生活を少しずつ見直していくことの重要性をもっと広めていく必要があると感じた。今日では、大人よりも中学生の方がSDGsや消費生活に関わる知識を蓄えているため、中学生をはじめとする若者が大人に情報を共有・発信していくことが消費者問題の解決に結びつくと思われる。これからも児童労働についての理解が深まり、各国の児童労働問題が解決されることを願う。

(山根未鈴 弘前大学人文社会科学部)